

ながえの里だより

医療法人ながえ会 広報誌(第40号)

発行日 令和5年2月1日

発行責任者 西村美智子



日本医療機能評価機構 認定病院
医療法人ながえ会

庄原同仁病院

庄原同仁病院介護医療院

〒727-0203 庄原市川北町890-1

Tel : 0824-72-7300

Fax : 0824-72-7333

e-mail : info@nagaekai.com

URL : <https://nagaekai.com/>



「備北イルミ2022」 撮影者 看護部 山吉広尚

この写真は、昨年の12月29日に備北丘陵公園へ行って撮りました。点灯されたのは午後5時30分でしたが、その頃にはかなりの人が来られていて、賑わっていました。

基本理念

わたくしたちは、すべての人に等しく

仁愛の精神をもって接し、

心の通う医療の実践に努めます。

基本方針

患者様の満足:常に患者様の立場に立って行動します。

職員の満足:働きやすく、やりがいのある職場づくりに努めます。

地域の満足:医療サービスを通じて地域の方々に喜ばれるよう努めます。

ひとに寄り添う ～ リハビリテーションの在り方～

当院のリハビリテーション科は患者様が快適に入院生活を送れるよう身体機能に対する治療、生活環境の工夫の提案等の業務を担っています。

当院の役割は療養型病院であり長期間の療養を目的としています。一般的には「急性期」、「回復期」、「維持期」の3段階に区分され、当院のような長期療養型の病院や介護医療院では、主として「維持期」のリハビリテーションを担当します。

「維持期リハビリテーション」とは、急性期、回復期のリハビリテーションが終了した後に、回復した機能が衰えないように維持することです。日常生活をなるべくご自身で行えるようにすることで生活の質の維持・向上を図り、身体の機能、能力を可能な限り維持できるよう支援します。

私たちがリハビリする上で大切にしていることは「傾聴」です。患者様の中には声にならない訴えを持っている方がおられます。表情・仕草・反応などから声にならない声を汲み取り、変化に気づき患者様が安楽に過ごすことができるよう心掛けています。

日々リハビリテーションの在り方を考える中で患者様から学ぶことも数多くあります。ある患者様ですが、日常生活場面で歩くことが困難な患者様をご本人の強い希望で歩行練習をされている方がおられました。歩く練習自体には日常生活において実用する場面がなく、動作練習において多くの比重を割くべきか考える場面ですが、その方は「歩くこと以外はしない」「死ぬまで歩きたい」と強い意志を持っておられ、ご家族・主治医と相談した結果、ご本人の意思を尊重し、歩行練習を主体にリハビリを実施する方向になりました。

その患者様はほぼ毎日歩行練習に取り組み、リハビリでは怪我をしないように心掛け、患者様の想いに応えられるよう善処しました。その方はなぜ歩くのかという理屈ではなく、歩きたいから歩くという強い信念を持たれていました。その方はおおよそ2年間歩き続け、大きな生活の質を落とすような大きな能力低下はみられませんでした。維持期リハビリの目的とはいえ、生活の質を上げることは容易ではありません。このケースではご本人が元々持ち合わせていた性格などの要素が多いとは思いますが、やりたいことをやる支援をおこなうことで生活の質は大きく変化しなくとも生きる活力になる一助になっていたかもしれません。もしリハビリがそういった場面で求められ、ご本人の限られた時間の満足度を上げることができることに立ち会えたならば、これほど嬉しいことはないと感じ、今でも強く印象に残っている出来事でした。

患者様にとって当院は適切な医療や介護サービスを受けるだけでなく、生活する場所としての役割を含んでいると考えています。ここでのリハビリテーションは単に心身機能に働きかけることだけではなく、患者様の人生に寄り添っていくことができる可能性があると考えています。そのために患者様1人1人とじっくり向き合い、これまでの人生で獲得してきた価値観や個性を尊重できる関わりができればと考えています。そしてリハビリテーションを通じて患者様の人生が少しでも彩られるように、共にこの病院で実りある豊かな日々を過ごしていきたいと思っております。



リハビリテーション科 主任
理学療法士 石田 尚矢



リハビリとは 一 当たり前をとりにどすこと

医療法人ながえ会 理事長 村尾文規

廁屎送尿著衣喫飯（『臨濟録』示衆）着替えをして、食事をする、排泄し、自分の成すべきことをして疲れれば、眠る。あたり前の日常生活の動作を表現した言葉である。お産のあと、母親と助産師の間で、『五体満足』という言葉が話題になる。言い古されている『這えば立て立てば歩めの親心』という言葉も、成長を見守りながら身体が正常に機能することを観察しているのである。意識下には、子供たちがあたり前の日常を送ることができるようにと願っているはずである。大切なことは、しばしば、意識下にある。

手足は正常に機能しているときには、それらを意識することはない、不都合が生じるまでは、その存在は消失している。ひとたび、機能に異常が生じると、たちまち、意識に上る。身体とは不思議な器官である。日常、よく経験することだが、身体に痛みを生ずると、無意識にその部位に手を置き、押さえたり、摩ったりしている。そのうちに、痛みが和らぐこともある。生体には、疼痛をコントロールする機構が備わっていて、圧覚、触覚を局所に加えると、その神経線維から痛覚神経線維に抑制がかかり、疼痛が和らぐというのである。これをゲートコントロールセオリーと言うのだそうだ。喜怒哀楽の情動など、心の信号を視床下部へ伝達する神経路も発見されている。心の信号によって身体機能が制御されるということになる。生きていくうえで大切なことが、しばしば、意識下であって、顕在化するためには心の信号であったり、身体の変化、運動などの役割が大きいと考えられる。手と言うものは大事なものである。手には心が現われるところだから掌(たなごころ)という。手のところである。仏前で手を合わせる。それは心を合わせることらしい。人は物を交換する生き物である。物を送る、ところを贈るのである。当院にも非常に有能な理学療法士、作業療法士を擁している。彼らの手を介して心を贈ってくれている。

理学療法士石田尚矢主任を引くと、『なぜ歩行訓練をしたいか』という問いに、その方は『歩きたいからだ』と答えたという。一生、歩きたいからだというのである。信念、心念なのであろう。基本的に与えられている能力の回復、尊厳を回復するためには理学療法士、作業療法士は、余人をもって代えられない存在なのである。リハビリテーションの本来の意味は、『権利、名誉、尊厳の回復』であるという。冒頭の言葉、当り前の生活の中に人間の尊さがある。理屈ではなく、このあたり前の姿に気がついたとき、人間であることの意義を発見するという注釈が付け加えられている。当院の理学療法士、作業療法士の、日頃の仕事ぶりは、頼もしいかぎりである。廁屎送尿著衣喫飯の深意を、きっと伝えてくれていると信じている。

新年のご挨拶

事務長 西村 美智子

新年あけましておめでとうございます。

昨年はコロナのクラスター発生により患者様・ご家族にご心配をおかけしたこと、また近隣の病院や多方面からのご協力をいただき、改めてお詫びと皆様のご理解とご協力に感謝申し上げます。

さて、今年はいざなぎ年です。新型コロナウイルスの感染の終息の見通しが見えない、ロシア・ウクライナの戦争、物価の上昇等、あまりいいニュースは聞かれませんが、私たちは自分たちの出来ることを精一杯取り組んで、スタッフと知恵を絞りながら、飛躍した1年にしていきたいと思っております。患者様、ご家族、みんなの笑顔が少しでも多く見られるよう頑張っていきます。

本年も当院の運営にご理解ご協力をいただきますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

Topics

ユニフォームが新しくなりました



看護師 (写真左・中)
管理栄養士 (写真右)

令和5年1月より、看護職員と栄養士のユニフォームが新しくなりました！

看護職員：ネイビー(襟元が女性はピンク、男性はターコイズ)

栄養士：ピンクのスクラブとネイビーのパンツ

軽くしなやかな素材なので、さらりとした手ざわりで着心地よく、機能的で動きやすいです。

長引くコロナの影響もあり、暗くどんよりした雰囲気が抜けきらない中、明るい話題に花が咲きました。

ユニフォームを一新したことで、職場のイメージも変わり、職員の一体感やモチベーションも高まりつつあります。

当院の目指す、安らぎの空間の醸成にむけて、「笑顔」、「優しい言葉」、「穏やかな心」が根付くことを期待しています。

看護部長 伊東亜由美

新入職員紹介



滝打 亜希子 看護師 介護医療院 令和4年12月入職

「昨年12月より、庄原同仁病院介護医療院で看護師として入職いたしました。地域の病院ということで、患者さまに寄り添った看護ができたらと思っています。よろしくお願いします」



Join Us!

スタッフ募集中！

★看護職員 ★介護職員 ★調理員 【 常勤・パートご相談に応じます 】

- ・プライベートの時間も大切に (休みはほぼ100%希望どおり)
- ・生き生きとやりがいのある職場作りを目指しています (採用担当：事務長 西村まで)

編集後記

明けましておめでとうございます。立春とは名ばかりでまだまだ寒い日が続いていますが、皆様におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

この度、新刊号の誌面においては当院のリハビリテーションについて紹介させていただきました。私は日々患者様と接する際に、表情や目線、触れることや身体の緊張などを媒介とした非言語的なコミュニケーションを大切にしています。それらが患者様の身体や心の状態を示しており、ひいてはその方の生活を教えていただける手がかりになると考えているからです。また、リハビリテーションが担う役割の中には、それぞれの患者様が考える「あたり前の姿」に寄り添い、その姿に近づくお手伝いをするのが含まれていると思います。今回の誌面を通して私自身リハビリテーションに携わる職員としての在り方を見直す良い機会となりました。

旧年に引き続きコロナ禍により病院や施設においても厳しい状況が続いておりますが、そんな時だからこそ笑門来福の精神で日々の業務に従事したいと思います。本年もよろしくお願いいたします。

リハビリテーション科 作業療法士 西岡進吾